

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1196500787
法人名	株式会社ふれあい広場
事業所名	ふれあい多居夢大宮
所在地	さいたま市西区植田谷本前通461-3
自己評価作成日	令和6年8月17日
評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kajgokensaku.mhlw.go.jp/11/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ケアマネージメントサポートセンター
所在地	埼玉県さいたま市中央区下落合五丁目10番5号
訪問調査日	令和6年7月9日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

さいたま市内でありながら、静かで豊かな田園風景・寺院に囲まれており、落ち着いた雰囲気の中で生活しています。顔なじみの職員が一人ひとりの入居者様に寄り添い、共に共同生活を営みながら、皆様がそれぞれ出来る事を行い、その人らしく、生きがい・役割を持って穏やかに生活できる様支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

・管理者・職員は入居者に対して優しい気持ちで丁寧に関わり、様々な工夫を凝らしたケアが行われている。また、「ふれあい便り」を駆使し、入居者の日常の生活ぶりや役割を写真に撮り家族に伝え、家族からも「中での様子がわかる」と好評を得られている。コロナ禍で制限がある中、家族の要望に応じて、感染症対策を取り、墓参りやショッピングセンターでの買い物などに出かけられ、帰所後は体調不良がないかチェックなども実施されている。
・運営推進会議については、事業所からは状況報告や「ふれあい便り」への家族からの意見や生活への要望などが発言され、また、民生委員からは災害発生時の地域で避難ができない住民への協力要請などが出され検討されている。
・目標達成計画については、令和5年度は厚労省通知の要件を満たし、外部評価の実施は緩和されたものの災害対策における地域住民との協力体制作りに取り組み、避難訓練への参加までは至らなかったが、運営推進会議で地域との協力体制づくりが話し合われ、現在も継続的に取り組まれている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目	取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	項 目	取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

取
-6.9.2
介護保険課
第 号

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表にて個々の排泄パターンを把握し、個人に合った間隔でトイレ誘導・オムツ交換などを行っている。自尊心を傷つけないよう配慮しながらケアに努めている。	それぞれの排泄パターンを理解し、職員同士でその人の状況を把握され、話し合いも実施されている。オムツやリハビリパンツに出来るだけ頼らず、入居者・家族の希望に沿って布下着での対応が行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日体操を取り入れている。水分摂取量の少ない方には、好みの飲み物を提供している。乳飲料・オリゴ糖なども使用している。また必要に応じて、主治医の判断の元、内服薬の調整も行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週2回の定期的な入浴ができるようにしている。その中で、拒否がある方には、決められた日ではなく、時間をずらす・翌日対応するなど工夫している。	職員と1対1の個浴で、湯船に入れない入居者にはシャワー浴、かけ湯、全身清拭などの対応がとられている。希望に応じて同性介助の支援も行われ、また、入浴中にはいろいろな話を聴く機会にもされ、昔の話や要望などを伺われている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間に休めるように、日中活動を行っている。朝ゆっくり起きてきたり、食後に居室静養される方も居るなど、本人のペースも大切にしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報ファイルを活用している。入居者の変化や薬の変更等があった場合には、早急に医師・薬剤師と連携し、その情報を職員で共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日頃の会話から、好きな事・興味のある事を聞き出し、個々の力を活かせる様、役割を持ち、それを楽しみながら活動できる様支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在は近隣へ散歩、花見ドライブの外出程度となっている。外泊・家族面会の為や買い物などの外出などご希望の方は、家族の協力の元実施すること出来た。	近くのお寺に散歩に出かけて花や仏像を見て楽しまれたり、玄関前で外気浴を行う姿も見られ、出来るだけ外に出られる機会を設けられている。また、家族の要望で墓参りや住んでいた家を訪問するなど、感染対策を行いながら支援をされている。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個々で金銭の所持はしていないが、入居の際に現金を所持したいと希望があれば、家族と金額を共有し、少額預かる事もある(後日家族へ返却している)。買い物は基本家族対応。家族同行にて、外出時に買い物をする事もある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	現在、携帯電話を所持している方は居ないが、希望時や家族・知人(家族了承済みの方)から連絡があった際は、電話のやり取りができている。手紙のやり取りも同様。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロア内は季節を感じられるように装飾し、目で楽しめる工夫をしている。温度・湿度管理・環境整備を行い、心地よく過ごしてもらえるよう配慮している。採光・TVの音量に関しては、個々の席や聴力にも左右される事がある。	入居者は共用空間に集まることが多く、体操や歌を楽しまれたり、洗濯物たたみや食器拭きなどの役割を果たされている。入居者そして職員の動きやすさに重点を置き、配席などは介護量に合わせた配置を行うなどの工夫が見られる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者の希望や関係性を考慮し、座席の配置を行っている。フロア～居室の往来も自由。気の合う方同士で楽しく家事参加をしたり、テレビ・音楽鑑賞ができている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具・日用品・衣類等、本人の親しみのある使用していたものを持参してもらい、今までの生活環境に近づけることが出来るようにしている。	筆筒や鏡台、テーブルなどこれまで使い慣れた家具のほか、家族の写真やプレゼントなどが飾られ、入居者が落ち着いて生活できるよう支援されている。居室での自由も確保され、無理に集まったりすることもなく、居心地よく過ごされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人一人の習慣やその時の状態に合わせて、安全で自立した生活が送れるよう環境を整え支援している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践に努めている	事務所に掲示し、いつでも確認できるようにしている。管理者を中心に、施設全体で理念の共有に努めている。	入居者を尊重し、家族との信頼関係も築かれるなど、常に理念に立ち返ることを基本に、職員全員での共有が図られている。今後、リーダー会議を通して、これまでの理念を基に現状に合わせた考えを盛り込むことが検討されている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ対策の影響で、外部交流はあまり出ていない現状だが、散歩の際は、近隣の方と挨拶を交わし交流を図っている。他、運営推進会議にて交流している。	地域とは散歩に出た際、職員も含めて挨拶を交わし交流を図られている。更に、運営推進会議を通して自治会長や民生委員、地域包括支援センターとの連携も図られ、災害発生時の地域での協力体制作りなども話し合われている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議にて日々の活動状況や認知症ケアに関する取り組みなど、情報提供を行い理解を求めているようにしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月毎に開催し、事業所の活動報告等を行っている。地域包括・民生委員・家族からの意見を受け止め、反映していけるようにしている。	運営推進会議は、定期的開催され、事業所からは日常の状況報告や「ふれあい便り」への家族からの意見、生活への要望などが話し合われている。また、民生委員からは災害発生時に避難ができない住民への協力要請の要望なども話し合われている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	電話連絡時等、実情や取り組みを伝えている。また、生活保護を受けている入居者の状況は、市の担当者で共有している。	法律改正に伴う加算の運用などについて市や区との連携が図られている。また、行政からの様々な情報発信もメールを中心にスムーズに行われ、情報共有も図られている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施設を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的な研修・身体拘束適正化検討委員会にて、左記の内容・不適切ケアについて理解し、フロア会議で周知し、適切なケアの実践に努めている。	身体拘束や虐待防止の検討委員会はそれぞれ定期的に開催され、マニュアルを基にディスカッションに努め、職場への周知が図られている。「現場で実践した状況はどうだったのか」を意見として出し合い、自分の行動の反省にも繋がられている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的な研修・虐待防止検討委員会にて理解を深め、虐待の芽チェックリストを定期的に行い、自身・他職員のケアについて振り返りをしている。		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度の研修があり、職員が理解できるように努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	基本管理者が説明している。入居者・家族の問い合わせ時には都度対応し説明を行い、理解・納得してもらっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議にて意見を伺ったり、来訪時、ケアプラン説明時など日頃の関わりの中で意見や要望を伺っている。意見箱を設置しているが、意見が投函される事は殆どない。	入居者や家族からの意見、要望についてはその都度対応され、家族からの排泄支援への質問や要望にも日頃の様子を説明し、理解いただいている。特に訴えの少ない入居者には職員が積極的に声をかけ、支援に繋がられている。	家族の意見により耳を傾け、電話や来訪時に入居者の様子を分かりやすく説明すると同時に、家族へ面会や行事への参加を呼び掛けることに期待します。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	随時、職員の意見を聞く機会を設け、適宜本社や管理者会議にて共有している。委員会・フロア会議等での意見・提案を、運営に反映できるようにしている。	現場での話し合い、フロア会議やリーダー会議を通して、職員の意見を取り上げられている。働きやすい業務内容への提案やレクリエーション担当を中心にドライブ企画などの様々なアイデアも出され、職場の運営にも活かされている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は管理者を通して状況把握をし、職場環境・条件の整理に努めている。必要時は面談・相談も行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月のeラーニングやTMG研修を活用してスキルアップを目指せる環境にある。資格取得希望者への補助金制度・勤務扱いでの研修参加が出来る環境を整えている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ感染症の懸念から、社外との交流機会は設けていない。社内では、管理者・リーダーは研修機会あり。他、学会にも参加している。		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の実態調査で、現状の不安や困りごとを聴取し、把握して、入居後も安心して生活が出来る様努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の問合せ・見学・実態調査・契約時に、本人・家族に入居後の生活を望んでいるか、また不安やケアに対する要望などを伝えやすい関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の話し合いで、本人・家族から十分に話を聞き、現行のサービスに加え、入居後に必要となりうるサービスの見極め・提案に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者より生活の知恵やアドバイス等学ぶことも多く、ともに助け合う人間関係を目指している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	それぞれの家族関係を重視している。家族面会時に日頃の生活について報告している。その際は、家族の要望・意見を確認するよう心掛けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族・友人との面会や文通・電話連絡などの支援や外出・外泊時など、関係性が断ち切れないよう支援を行なっている。	遠方の親戚からの電話を取り次いだり、友人の面会や文通などにも支援がなされている。また、事業所内では馴染みの音楽をかけたり、時代劇や昭和の映像、全国の観光地の写真集を楽しめるなど、これまでの思い出を大切にされている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係性を考慮して、その場の状況に合わせて会話の橋渡しをする等職員が介入しながら支援している。		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご逝去にて退居の場合も多く、退居後は関係性が無い傾向にあるが、家族より相談があれば対応し、相談・支援に努めている。退居後に電話や手紙にて感謝の言葉をいただく事もある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者の小さな変化等の情報も職員間で共有している。入居者の話に耳を傾け、気持ちに寄り添い、出来る限り本人本位になる様努めている。	聴く姿勢を大切に、入居者が「こうしたい」という思いを汲み取り、昔からやってきたことや得意なことなどを把握し、役割を努めていただいている。入浴支援時には入居者の本音をお聴きするなど、尊敬の念と気軽な言葉をうまく使い分けられている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に家族に『発症経過シート』に生活歴・環境等記入してもらっている。その他、アセスメントシート等も含め職員間で情報共有し把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者一人一人の生活パターンやリズムを職員が把握し、毎日の申し送り・定期的にフロア会議にて情報共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者・家族・医療関係者の意見をもとに、リーダー・ケアマネ・居室担当者を中心に、本人に合った介護計画を作成している。	入居者・家族の要望がそれぞれの言葉で表現され、医師からの情報や援助方針も詳しく具体的な表現がなされている。その人その人に合った個別の細やかなサービス内容で、ニーズから目標、支援内容までの一貫性も見られる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	必要な情報・入居者の様子に変化が見られた際など、記録・申し送りにて共有し、会議時や日々のケアの中で次回計画の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	スタッフ間で情報共有し、その都度必要なニーズへの支援が出来る様にしている。		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ感染症流行後は、地域の方の来訪(保育園児の慰問・ボランティア)はほとんどなく外部とのつながりが減少。散歩時には、近隣の寺や自然を楽しんでもらえるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医は24時間オンコール対応で適宜報告し指示を仰ぐことが出来るため、適切な医療が受けられる体制となっている。入居前のかかりつけ医にそのまま受診される方も居る。	医療機関の選択については、入居時に本人・家族の希望に沿った対応がなされ、入居前からのかかりつけ医を受診される入居者もおられる。通院時には日ごろの状態を記載した経過観察表を同行の家族に手渡し、診察後の情報は全職員で共有されている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の訪問看護の際に随時相談・報告を行い、適切な処置やアドバイスを受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中は適宜病院と連絡を取り、カンファレンスを重ね、スムーズな退院に向けて受け入れ体制を整えることが出来ている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期を迎える入居者には、本人・家族の意向を尊重しながら、主治医等多職種と都度話し合いを行い、情報共有・対応確認をしながらチームで取り組んでいる。	入居時に指針を基に家族に説明を行い、その後は入居者の状況に合わせて話し合い、今後についての説明も行われている。また、看取り後には職員への「グリーフケア」が実施され、「これで良かった」と思えるよう心のケアにも取り組まれている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時・事故発生時の研修を受け、実践している。緊急時フローチャートを事務所に掲示し、対応統一を図っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	洪水マップの掲示、年2回の消防(自然災害発生時BCP)訓練を開催し、消防への通報方法・避難方法の確認を行っている。運営推進会議にて、有事の際の協力をしてもらえよう、自治会・包括とも連携している。	入居者も含めて訓練時には全員が外に出ること、更に昇降機の訓練なども実施されている。事前情報をあまり流さず訓練に入り、職員が失敗してそこから「こうするべき」を気づき、学ぶことで、職員の認識も高まり、レベルアップに努められている。	災害発生時に職員がスムーズに行動できることが重要と想定されることから、具体的な状況設定に基づき「こういう時はどうするのか」を全員が考えて行動出来るように訓練されることに期待します。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩である入居者様を尊重し、声掛けや言葉遣いに配慮している。自尊心を尊重し、尊厳とプライバシーの保護に努めている。	自尊心を大切に、皆の前で知られたくないことを聴いたり、話したりすることには十分な注意が払われている。自分や自分の大切な人がされたら嫌なことはしないことを基本に「不適切ケアチェックリスト」などを活用して周知がなされている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者の意思を尊重し、自己決定を促している。表出が難しい方には、表情・行動などから判断している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事・入浴時間等は概ね決まっているが、できるだけ本人の意思を尊重し、個々のペースに合わせて生活できるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎朝のモーニングケア・入浴後の衣類選び・整容・定期的な訪問美容など行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員がサポートし本人の意欲を大切にしながら、盛り付け・配下膳・食器洗い・片づけ等への参加を促している。	日常の食事に加えて、ハンバーガーや弁当など目先を変えて楽しんでいただき、また、食事形態を医師と相談して、嚥下機能検査を実施し、常食に変えるなどの支援が行われている。食事の準備や後片付けには入居者が生活リハビリの一貫としてそれぞれの役割で参加されている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分・食事摂取量を把握し、少ない場合は飲みやすい飲み物をこまめに飲めるよう声掛けし、補助食の提供も行っている。食事形態は、個々の口腔内・嚥下状態を考慮した形状のものを提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケア(声掛け・見守り・介助)を行っている。訪問歯科と連携を図り、口腔状態・清潔保持に努めている。		

(別紙4(2))

事業所名ふれあい多居夢大宮

目標達成計画

作成日: 令和6年 9月 9日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	13	消防設備について把握が出来ていない。	全職員が消防設備を理解し使用できる	1、年2回の消防訓練時に消防設備を確認 2、設備使用方法について消防訓練時に実施する。	12ヶ月
2	10	ご家族に入居者の様子を分かりやすく説明出来ていない(説明は行っている)	入居者の様子をご家族に分かりやすく説明できる	1、利用者の状態の理解をする為に居室担当がフロア会議に向けての入居者の様子を毎月記載し発信する 2、利用者の状態変化があった時は、5W1Hを意識し報告する。3、報告の方法の研修を行う	12ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。

整理日: 令和6年9月29日

(別紙4(3))

サービス評価の実施と活用状況(振り返り)

サービス評価の振り返りでは、今回の事業所の取り組み状況について振り返ります。「目標達成計画」を作成した時点で記入します。

【サービス評価の実施と活かし方についての振り返り】	
実施段階	取 り 組 ん だ 内 容 (↓該当するものすべてに○印)
1 サービス評価の事前準備	☐ ①運営者、管理者、職員でサービス評価の意義について話し合った
	☐ ②利用者へサービス評価について説明した
	☐ ③利用者家族へサービス評価や家族アンケートのねらいを説明し、協力をお願いした
	☐ ④運営推進会議でサービス評価の説明とともに、どのように評価機関を選択したか、について報告した
	☐ ⑤その他()
2 自己評価の実施	☐ ①自己評価を職員全員が実施した
	☐ ②前回のサービス評価で掲げた目標の達成状況について、職員全員で話し合った
	☐ ③自己評価結果をもとに職員全員で事業所の現状と次のステップに向けた具体的な目標について話し合った
	☐ ④評価項目を通じて自分たちのめざす良質なケアサービスについて話し合い、意識統一を図った
	☐ ⑤その他()
3 外部評価(訪問調査当日)	☐ ①普段の現場の具体を見てもらったり、ヒアリングで日頃の実践内容を聞いてもらった
	☐ ②評価項目のねらいをふまえて、評価調査員と率直に意見交換ができた
	☐ ③対話から、事業所の努力・工夫しているところを確認したり、次のステップに向けた努力目標等の気づきを得た
	☐ ④その他()
4 評価結果(自己評価、外部評価)の公開	☐ ①運営者、職員全員で外部評価の結果について話し合った
	☐ ②利用者家族に評価結果を報告し、その内容について話し合った
	☐ ③市区町村へ評価結果を提出し、現場の状況を話し合った
	☐ ④運営推進会議で評価結果を報告し、その内容について話し合った
	☐ ⑤その他()
5 サービス評価の活用	☐ ①職員全員で次のステップに向けた目標を話し合い、「目標達成計画」を作成した
	☐ ②「目標達成計画」を利用者、利用者家族や運営推進会議で説明し、協力やモニター依頼した(する)
	☐ ③「目標達成計画」を市町村へ説明、提出した(する)
	☐ ④「目標達成計画」に則り、目標をめざして取り組んだ(取り組む)
	☐ ⑤その他()